

ハンズ・オンの可能性を考える

実物資料やレプリカを実際に手に取って学ぶ「ハンズ・オン」は、この20年の間に博物館をはじめとする国内の館園へ広がった。数多くの実践事例が報告されている一方で、その効果や可能性について検証される機会が少ないのが実情である。今回のシンポジウムでは、歴史系博物館や科学館、民家園における多様な取り組みを紹介するとともに、これまでの傾向や問題点を取り上げ、様々な角度から「ハンズ・オン」を検証しその新たな可能性について考える。

▶ 日時 2017年 **11月27日** (月)
11:00 ~ 17:45

▶ 会場 明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン
参加申し込み不要、参加無料

11:00
↓
12:00 **ワークショップ**
(地下2階 博物館常設展示室)
※時間中自由参加

13:00
↓
17:45 **報告&討論**
(8階 308E 教室)

開会挨拶 村上一博氏 (明治大学博物館館長)

《第1部》 ハンズ・オン事例報告 司会: 外山 徹氏 (明治大学博物館)

- ① 「レプリカと実物資料の使い分け」
— 明治大学博物館における歴史系資料のハンズ・オン事例」 忽那敬三氏 (明治大学博物館)
 - ② 「博物館における未就学児の学び」
— 国立科学博物館「親と子のたんけんひろば コンパス」を事例に」 小川達也氏 (国立科学博物館事業推進部学習課)
 - ③ 「日本民家園らしいハンズ・オンってなんだろう？」
— 民俗系博物館にありがちな体験モノからの脱出奮闘中—」 関 悦子氏 (川崎市立日本民家園)
- コメント: 布谷知夫氏 (全日本博物館学会会長)

《第2部》 ハンズ・オンの可能性

- ① 「科学系博物館におけるハンズ・オン」 小川義和氏 (国立科学博物館附属自然教育園長)
 - ② 「ハンズ・オンが機能するとき」 染川香澄氏 (ハンズ・オンプランニング)
 - ③ 「触る展示の可能性」 黒沢 浩氏 (南山大学)
- コメント: 若生謙二氏 (日本展示学会会長)

《第3部》 討論 司会: 矢島國雄氏 (明治大学、全日本博物館学会総務委員)

開会挨拶 李 英美氏 (明治大学博物館副館長)

